

P C T

国際予備審査報告

(法第12条、法施行規則第56条)
(PCT36条及びPCT規則70)


REC'D 30 MAR 2001

WIPO

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 H789-01	今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知(様式PCT/ IPEA/416)を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JPO0/05041	国際出願日 (日.月.年) 27.07.00	優先日 (日.月.年) 06.08.99
国際特許分類 (IPC) Int. Cl ⁷ A61F13/72, A61F5/44, A41B9/04, A41C1/00		
出願人 (氏名又は名称) 株式会社ワコール		

1. 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条(PCT36条)の規定に従い送付する。
2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。
- ☒ この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関に対してした訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面も添付されている。
(PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照)
この附属書類は、全部で 3 ページである。
3. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。
- I ☒ 国際予備審査報告の基礎
 - II ☐ 優先権
 - III ☐ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
 - IV ☐ 発明の単一性の欠如
 - V ☒ PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 - VI ☐ ある種の引用文献
 - VII ☐ 国際出願の不備
 - VIII ☐ 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 23.08.00	国際予備審査報告を作成した日 15.03.01	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官(権限のある職員) 内田 淳子 	4C 8115
電話番号 03-3581-1101 内線 3452		

I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に
応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。
PCT規則70.16, 70.17)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書 第 1-31 ページ、 出願時に提出されたもの
明細書 第 ページ、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
明細書 第 ページ、 付の書簡と共に提出されたもの

☒ 請求の範囲 第 3-16 項、 出願時に提出されたもの
請求の範囲 第 項、 PCT19条の規定に基づき補正されたもの
請求の範囲 第 項、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
請求の範囲 第 1, 2, 17 項、 08.02.01 付の書簡と共に提出されたもの

☒ 図面 第 1-31 ~~ページ~~/図、 出願時に提出されたもの
図面 第 ページ/図、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
図面 第 ページ/図、 付の書簡と共に提出されたもの

☐ 明細書の配列表の部分 第 ページ、 出願時に提出されたもの
明細書の配列表の部分 第 ページ、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
明細書の配列表の部分 第 ページ、 付の書簡と共に提出されたもの

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である _____ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語
☐ PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表
☐ この国際出願と共に提出されたフレキシブルディスクによる配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出されたフレキシブルディスクによる配列表
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった
☐ 書面による配列表に記載した配列とフレキシブルディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 図面の第 _____ ページ/図

5. ☐ この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならないが、本報告に添付する。)

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性(N)	請求の範囲	1-17	有
	請求の範囲		無
進歩性(IS)	請求の範囲	1-17	有
	請求の範囲		無
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲	1-17	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

国際調査報告で引用した文献

文献1: JP, 60-116315, U (竹島弘江), 6. 8月. 1985
(06. 08. 85), 実用新案登録請求の範囲及び図面
(ファミリーなし)

文献2: JP, 45-32398, Y1 (株式会社新生商会)
10. 12月. 1970 (10. 12. 70)
実用新案登録請求の範囲及び第1図 (ファミリーなし)

文献3: JP, 3007547, U (高瀬かおる) 21. 2月. 1995
(21. 02. 95) 請求項I、第6段落及び図1 (ファミリーなし)

文献4: JP, 3002607, U (株式会社ワコール) 27. 9月. 1994
(27. 09. 94) 請求項I, 3, 及び図4 (ファミリーなし)

文献5: JP, 9-173383, A (株式会社ウィズ) 8. 7月. 1997
(08. 07. 97) 請求項I 及び図2 (ファミリーなし)

説明

(請求の範囲第1-17項について)

文献1-5に記載されたものはいずれも、第2のクロッチ部片が、その前後端縁部のみで衣料本体に取り付けられており、それが更に、前後端縁部以外の部分においても、その中央ライン部の少なくとも一部で衣料本体のクロッチ部片に取り付けられているものについては、記載も示唆もされていない。

したがって、本願請求の範囲1-17に記載の発明は、新規性、進歩性を有する。

請 求 の 範 囲

1. (補正後) 肌に接して着用される股部を有する衣料において、
衣料本体の伸縮性クロッチ部片の内側面に、吸収性物品を当てがって保
5 持するための第2のクロッチ部片が設けられており、前記第2のクロッ
チ部片は、その前後端縁部で衣料本体に取り付けられ、且つ更に前記前
後端縁部以外の部分においても、その中央ライン部の少なくとも一部で
衣料本体のクロッチ部片に取付られており、前記第2のクロッチ部片の
左右の両縁部は衣料本体と結合していないフリーの状態である股部構造
10 を有する衣料。

2. (補正後) 肌に接して着用される股部を有する衣料において、
衣料本体の伸縮性クロッチ部片の内側面に、吸収性物品を当てがって保
持するための第2のクロッチ部片が設けられており、前記第2のクロッ
チ部片は、少なくともその長手方向に伸縮性を有する編物または織物か
15 らなり、その左右の両縁部近傍と長手方向中央ライン部に沿った部分の
緊縮力が高められており、また、その前後端縁部で衣料本体に取り付け
られ、且つ更に前記前後端縁部以外の部分においても、前記中央ライン
部の少なくとも一部で衣料本体のクロッチ部片に取付られており、前記
第2のクロッチ部片の左右の両縁部は衣料本体と結合していないフリー
20 の状態である股部構造を有する衣料。

3. 第2のクロッチ部片は、その左右の両縁部の長さが所定の長さ
より短い部片の左右の両縁部を引き伸ばして取り付けられており、且つ、
長手方向中央ライン部に沿ってその裏側にストレッチテープが取り付け
られている請求項2に記載の衣料。

25 4. 第2のクロッチ部片は、その左右の両縁部の長さが所定の長さ
より短い部片の左右の両縁部を引き伸ばしてその前後端縁部で衣料本体

に取り付けられており、且つ、長手方向中央ライン部ほぼ全長部分が、
その裏側にストレッチテープを介して衣料本体のクロッチ部片に取付ら

10. 第2のクロッチ部片が、その左右の両縁部にストレッチテープが取り付けられている第2のクロッチ部片である請求項9に記載の衣料。

5 11. 第2のクロッチ部片が、その左右の両縁部近傍又はその左右の両縁部近傍と長手方向中央ライン部近傍において、第2のクロッチ部片を構成する編物または織物の弾性繊維糸の太さ及び／または使用密度が高められて、その左右の両縁部近傍の縁に沿った方向又はその左右の両縁部近傍と長手方向中央ライン部近傍に沿った方向の緊縮力がより高められている第2のクロッチ部片である請求項9に記載の衣料。

10 12. 衣料本体のクロッチ部片並びに第2のクロッチ部片がともに、防水加工されていない織物または編物からなる請求項1～4のいずれかに記載の衣料。

15 13. 第2のクロッチ部片が、防水加工されていないラッシュェル編物および防水加工されていないトリコット編物から選ばれた編物からなる請求項1～4のいずれかに記載の衣料。

14. 着用状態における第2のクロッチ部片の幅方向の断面形状が、その左右の両縁部近傍ならびに長手方向中央ライン部が人体方向に盛り上がったような略W形状である請求項2～4のいずれかに記載の衣料。

20 15. 吸収性物品が生理用ナプキンである請求項1～4のいずれかに記載の衣料。

16. 衣料が、ショーツ、ガードル、ボディースーツ、レオタードから選ばれた衣料である請求項1～4のいずれかに記載の衣料。

25 17. (追加) 第2のクロッチ部片が、その前後端縁部で衣料本体に取り付けられ、且つその中央ライン部の全長においても衣料本体のクロッチ部片に取付られている請求項1又は2に記載の衣料。